

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102087		
法人名	有限会社ひよこ		
事業所名	グループホーム「コケッココー」		
所在地	〒501-0115 岐阜県岐阜市鏡島南1丁目11-7		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102087-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 んふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ホームは、開設10年になります。長期就業職員が多く、それぞれに認知症利用者への対応能力が抜群に成長して来ております。利用者個々の心身の状態を把握し、日々の観察の中で小さな変化を見極める能力も高く、常に9名の利用者お一人お一人の性格や認知症の部分深く理解することに努め、全員の方がその人らしい毎日を送っていただけるようにそれぞれの方に過不足の無いバランスの良いケアに努めています。利用者様にはそれなりに生活を楽しんで暮らして頂いていると思ひますし、御家族にも御安心していただけていると自負しております。またターミナルケアも開設当初から挑戦し十数人の方を看送らせていただきました。出来る限り家族の思いやご本人の思いを汲み荘厳に死を迎える協力を惜しまず、それぞれの役割を全うする環境を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「コケッココー」は開設して10年を迎える。今では、利用者に質の高いサービスの提供をしている。施設内はいつも歌声が聞こえ、利用者スタッフが一体となって、日々明るく元気に過ごしている利用者の満足な笑顔がそこにある。ターミナルを十数件やり、利用者及び家族に理念である安心感を与えている。入居の申し込みが後を絶たないことが、その証の一つである。施設長は今後、ますます需要が増え続ける介護業界に、現場の経験者として介護技術の指導、知識の伝導、何より介護の大切さ、重要さを教えたいと人材育成に取り組みたいと考えている。このことに若い介護者がどれだけこたえられるか、エールを送るとともに見守っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにおいて、全員で理念を読み上げ再確認し、実践に繋げるよう努めている。	理念は、基本方針と事業計画、介護計画等に反映されてはじめて生きることを理解して全て文章化されているとともに、職員全員に周知している。日々のケアで実践し、記録として残している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体の回覧板を活用して、地域の方々に「ホームだより」を読んで頂いている。また管理者が地域の催しに出席し、地域の子供会と入所者と年に一度集いをしてしている。	地域との交流は、コケッコローの便りを、家族や関係機関に送付し、さらに利用者と一緒に近所に、挨拶を添えて10年前から配っている。現在も、施設からの情報発信を積極的にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14・15日を「ひよこの日」として、「認知症の方の悩み・愚痴・相談 何でもお聞きしますデイ」を設けている。また「認知症サポーター養成講座」の会場を提供、地域に広くアピールして地域の方も来ていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告書を作成し、会議の参加者に説明を行い、得られた意見・助言等をサービスの向上に活かせるように、職員間で話し合いをして実践できるように努めている。	運営推進会議は定期的に行われている。家族の参加を呼び掛けているが十分とはいえない。これからも家族に参加してもらえよう、積極的に働きかけて行こうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、介護保険課に出席していただき状況報告、また高齢福祉課・生活福祉課も個々の利用者と家族間支援の為や、現在の状況報告を定期的に行っている。	市役所との連携は良くとれている。運営推進委員会を利用して、利用者の状況を見てもらったり、高齢福祉課や生活保護を扱う、生活福祉課とも意見交換を常に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて新人職員を含めた全職員に周知出来るように内部研修を行っている。また、日常で気になる点がある時には、助言・指導等にて身体拘束のないケアに努めている。玄関や勝手口は夜中以外は開放している。	コケッコローは、絶対に拘束しないことを組織として確立しており、組織の体制が出来ている。拘束は過去も、今も行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様にミーティング内にて内部研修を行い、理解浸透を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員ミーティングにおいて内部研修で取り上げ、全職員が学習する機会を設けている。また、活用が必要と感じられた方には、関係者との連絡・調整等の支援を行っている。現実に日常生活自立支援事業を活用者が3名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の安心できるように、口頭かつ文書で十分な説明を行い、意義申し立てを受け入れる体制をとって理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族訪問時に出来る限りコミュニケーションをはかり、家族等の意見を求めるようにしている。また玄関に意見箱も設置している。	家族との対話の大切さを職員全員に周知している。家族の生の声を大切に、面会時には湯茶の接待をして、コミュニケーションを図っている。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて、意見交換を行ったり、全職員の意見・提案を聞く事を目的に「課題解決意見書」を用いている。	施設長は、職員の意見をよく聞き、良い意見や提案はみんなで協議して、実行に移している。良い意見が出たときは、『良い提案で賞』を出し、感謝を表しモチベーションの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の適性を把握し、やりがいの持てる環境作りに努めている。また、個々の努力に対しては、感謝の意を込めた表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々の適性を見出し、外部の研修受講の支援をして、能力向上に繋げている。受講した職員は、内部研修にて全職員に報告・指導を行い、共に能力向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修において、他事業所の考え方等を聞き、それを参考にしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を取り除くことに重点を置きながら、本人と話をする時間を多く取れるようにしている。また、表情や行動を見ながら、言葉にはできない思いも組み取れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の思い等を十分に聞き、これまでの苦労に労いの言葉をかけ、入所後は、随時家族と連絡を取りながら本人の様子を伝え、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極められるように職員間で情報を共有して迅速に対応している。現在は、訪問で診療・歯科・美容を全員の方が、マッサージを利用されている方が数名おみえになる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々の役割りを見出し、協働しながら暮らしている。また、利用者への敬いの心を持ち続けるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来ていただけない家族とは、外部面会が出来るように支援している。また、遠方の家族とは電話で話をすることで安心感を得られるように、家族と共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援するように努めてはいるが、本人の心身の大きな変化に友人等が戸惑い、来所の機会や帰宅等の家族支援が減ってきている。	散歩の時、近所の方と挨拶をすることで、馴染みになっている。また、喫茶店の人も関係が出来ているが、利用者の加齢とともに家族、親戚そして馴染の友人と関係も薄れてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、上手く関わりが持てるように職員が調整役になっている。現在、孤立している方はみえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取った方の家族が野菜等を持参、利用者や職員の顔を見に来て下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や行動から精神面のケアが出来るように努めている。本人の希望・意向に沿えるように、個々にコミュニケーションを取る時間を設けている。	職員といつも一緒に会話、歌声、笑い声が絶えない。職員は利用者が今、望んでいることは何か、どうしたいのかを寄り添いながら、思いや意向を聞き出し、ケアに反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談等で、本人・家族・関係者から得た情報を連絡ノートに記載、その後にはミーティングにおいてアセスメント表を用いて報告を行い、全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の「出来る事」「やっていること」の把握が出来るよう職員間で助言・指導している。また、心身状態においては、変化を見逃さないように、小さな気付きも職員で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を聞き、ミーティングにおいて全職員で意見交換を行った上で、ケアマネージャーが介護計画を作成している。	アセスメント、ケアプラン、介護記録、モニタリングと介護計画の関係書類は整備されている。介護計画の作成は、関係職員と話し合い、意見をプランに反映させている。勿論、利用者、家族の意見と同意はある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録し目を通す事により情報を共有して、個々の状態の変化には随時検討を重ねて、実践に繋げている。ミーティングでは、モニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の疑問に答え、要望に沿えるように、柔軟な対応をしている。例えば法事の付き添い、白内障手術の付き添い、医療機関入院の際、差し当ってのお世話など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店でコーヒーを飲みたい方、スーパーで買い物をしたい方、地域の催し物に参加したい方等、各々と行動を共にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の納得と同意の上で、利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医とされている。	歯科、眼科等、以前からのかかりつけ医の受診支援はある。事業所の協力医により、24時間の医療体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職員に利用者の変化等を報告し、看護職員はかかりつけ医に報告・相談し、適切な看護を受けている。また、看護職員は緊急時の相談・助言等、24時間可能な体勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の知識と経験から、安心・安楽な終末期を過ごせる支援を行っている事を説明し、本人・家族の意向を聞きながら、早い段階で話し合いを行っている。	入所時に事業所として出来る終末期の基本方針を説明し、その後早い段階から家族と共に、確認し同意を得ながら取り組んでいる。開設当初から十数人の方を看取り、家族や本人の思いを汲み、安らかな終末を迎える環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、初期対応や応急手当を身に付ける為に、ミーティング内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	人手の少ない夜間帯の災害を想定した避難訓練を年に2回行っている。また、緊急時の地域の連絡網を作成して、協力体制を築いている。	市の消防署協力の元、総合防災訓練や事業所独自で、夜間想定避難訓練を行っている。備蓄品は水や食料品も徐々に整備している。二階には大きく開口した避難場所がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「そのひとらしさ」を大切に、相手の立場に立った考え方が出来るように努め、個別のケアを心掛けている。	日頃からケアに対し、その人らしさを大切に、アイデア賞等を設け、ケアとは何かを考えている。一人ひとりのプライバシーに対して、適切なケアを職員一人ひとりが心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを出しやすい環境作りに努め、個々に合わせた関わりを持つことにより、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を優先し、個別ケアを基本とした、柔軟な対応が出来る体制を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自分の目で選び、試着をして好みの服を買う事が出来るように付き添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を取り入れられるようなメニューを考え、食材の準備から後片付けまでを、個々の能力に合った役割を持っていただいている。	近隣の人に旬の野菜を頂いた時など、職員と食事作りをしたり、普段の日は一緒に食べたり、片付けも行っている。誕生日には特別なメニューを加えたり、嗜好を考えての食事を楽しむ事の出来る支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体系や健康状態に合った、必要摂取量が確保できるように様々な角度から支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の助言・指導を受け、個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後や入浴前後にトイレに行けるような声掛けを行っている。意思疎通の困難な方は、排泄のサインやパターンを把握して、トイレへの誘導・ポータブルトイレへの移乗が出来るように支援している。	排泄パターンを把握し、昼間はパットや布パンツで過ごせるような支援に努めている。食事や入浴前には、特にトイレに誘導し、自立した排泄が出来る様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を目指して、食物繊維の多い食事作り、排便パターンの把握に努め便秘薬投与など対策に心掛けている。また、水分量には気を配り、野菜ジュースや牛乳等も飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方は2名、他の方は介助が必要であるが、入所者個々のペースに合った入浴が出来るように支援している。	入浴ケア時には男性の力を借りたり、入浴日でない日には、積極的に足浴したり、清拭を行ったりし、清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況に応じて、日中の休息を取り入れている。夜勤帯職員に毎朝状況報告をしてもらって問題点があれば対策を講じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングにおいて看護職員から全職員に個々の服薬情報の説明を行い、理解浸透を図っている。心身の状態観察は常に行い、変化等には迅速に対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある日々を過ごせるような役割りを見出し、個々に合わせた楽しみごとにより、気分転換できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況に合わせて花見や散歩に出掛けている。また、家族と外出・外食される際には、快適に過ごしていただけるように排泄に関して気を付けていただく事を説明している。	希望者には地域の喫茶店や、スーパーに行ったり、近くでの催し物にも職員と参加したり、外に出かける楽しみがある。個人的には職員の付き添いで法事に出かけ、本人の希望をかなえている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の経済状況を考えながら、本人の希望に沿った買い物が出来るような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話出来るように、本人の希望に応じた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節ごとの花や物品を飾ったり、心の安定をはかるBGMやアロマを用いて不快感を取り除いたりして、様々な取り組みをして居心地の良い住まいに心がけている。	リフォームされた食堂兼居間は、やや狭いが香をたき癒されるよう工夫している。清掃が行き届き2階にも、広さ、明るさも十分あり、日ざしが入り居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おしゃべりを楽しみたい方、静かが好きな方、各々に合わせて居間や食堂の席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせて本人の了承を得たうえで居室の変更を行っている。また、家から持参した小物や写真等で馴染みの空間づくりをしている。	大きい家具類は事業所で用意されたものだが、家から持ち込んだ小物や、家族写真があり居心地よく過ごせる、部屋造りの工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険箇所の点検、環境整備には常に目配りをし、安全安心な自立した生活が送れるように検討することを随時行っている。		